

み言葉を生かす 詩篇 119:105-112

2022. 6. 26 庄、7. 5 丘 NO. 681
春日部福音自由教会 山田豊

かつて埼玉県庁には「憲法を暮らしに生かそう」との垂れ幕が下がっていました。いつの間にか取り外されています。現在、参議院選挙の真っただ中です。憲法は、私たちの国でどのようになっていくのでしょうか。

詩篇 119 篇は、全詩篇で最も多くの節があり、アルファベット文字で 8 節ずつ書きだされる、いろは歌です。内容は、神の言葉である律法が、これに関連する 10 の言葉に言い換えられて、122 節以外すべての節に入られています。テーマは律法を暮らしの中で行っていくことであり、これは現代ユダヤ人も、心がけていることだと思います。

本日のテキストは、ヌンで始まる単語が、各節の最初に置かれています。105,106 節は、律法が人の歩みを照らす灯であり、その律法を守ることを誓っていることをうたっています。聖書時代の灯、光は、陶器で作られたランプでした。現代の LED ライトのように、遠くまで照らすことはできません。自分の足元を照らすものであり、文字通り一足一足ゆっくり歩むことが必要でした。神様の言葉は、たとい小さくゆっくりであっても、私たちの歩みに欠かすことはできません。

107,108 節は、悩みの中でも口のささげる奉げもの、それは賛美であり祈りであったでしょう、それを受け入れてくださいと歌っています。また、109,110 はその苦しみの極致にいたることが明らかにされます。悪者がわなを仕掛けるような状況にあって、命がけで神の言葉を守ろうとしているのです。あなたの人生で、自分の命を懸けて守ってきたもの、戦ったことがありますか？そのような中で、命を落とした人もいたことでしょう。これは必ずしも、殉教を意味しません。日々の生活の中で、そのような思いや覚悟をもって事に当たらなければならないとき、イエスのように血の汗が出るような思いで祈らなければならないときがあるのです。困難な時ほど神様により頼み、神様の言葉の通りに進んでいくのです。あなたにとってそれは、どのような時でしたか。

111,112 は、神の言葉は私たちに与えられたものであり、それは永遠に続くものであることを歌っています。イエスは、神の律法を二つにまとめられました(マルコ 12:29-31)。それは、神を愛し、自分を大切にするように、隣人を愛することです。これをあなたの生活の中に、どのように生かしているのでしょうか。み言葉に生かされ、み言葉を生かす日々を送りたいものです。

引用聖句

申命記 5:27 あなたが近づいて行き、私たちの神、主が仰せになることをみな聞き、私たちの神、主があなたにお告げになることをみな、私たちに告げてくださいますように。私たちは聞いて、行います。」

マタイ 11:28 すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。

ガラテヤ 4:4,5 しかし定めの時が来たので、神はご自分の御子を遣わし、この方を、女から生まれた者、また律法の下にある者となさいました。これは律法の下にある者を贖い出すため、その結果、私たちが子としての身分を受けようになるためです。

マルコ 12:29-31 イエスは答えられた。「一番たいせつなのはこれです。『イスラエルよ。聞け。われらの神である主は、唯一の主である。心を尽くし、思いを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』次にはこれです。『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』この二つより大事な命令は、ほかにありません。」

ガラテヤ 5:14 律法の全体は、「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ」という一語をもって全うされるのです。

V 敬虔主義の流れにある

自由教会運動の流れを全体としてみると、聖書の教えを知識として捉えるだけでなく、それを実際正接に適用して生きることを大切にしてきたということが出来る。…私たちは聖書が温かい心をもって一人一人の生活に適用されなければならないことを信じている。信仰についての教理の理解において確固たる聖書的な中身を持っていることは極めて重要なことであるが、それとともに、御子イエスキリストを通して父なる神とのダイナミックな生きた関係をもって、聖霊の力によって生きることも等しく重要である。…健全なキリスト教の教理は、ダイナミックなキリスト者の経験を伴わなければならない。

(70周年記念誌、2019年「福音自由教会の信仰と特色」 谷下信之)

「世界ふれあい街歩き ウクライナ、キエフ」2019 年放送の特別版(2022 年 6 月 14 日放送)より、ウクライナの伝統楽器バンドウーラを弾いていたジタン・タマリクさん(53 歳)の言葉

・2019 年に歌っていた歌

「服を脱ぎ棄て、神の期待に背いた、いとしきイエスに賛歌をささげる、それが私にできること、すばらしきイエス」

・2022 年、ロシア軍のウクライナ侵攻を受けて、領土防衛隊に志願、現在軍事訓練を受けている。

「もちろん恐怖はありますが、軍に入ったのは戦うためです。戦場に出ていく覚悟はできています。ほかに選択肢はないのです。」

